

令和3年長崎市観光統計の概要【暫定版】

【暫定版】について

今回提出する統計は、本市への入市客数を積算する際に参考とする基礎データ（交通関係）が揃っていないため、観光客数など一部の数値が「暫定値」となっています。基礎データが揃い次第、再調整し、後日改めて「確報版」を公表しますので、それまでの間の参考資料とし、非公表として取り扱ってください。

(1) 令和3年の観光動向

ア 全国の観光動向

日本人国内旅行消費額			
9兆1,835億円	前年比7.9%減	(7,903億円減)	
① 宿泊旅行	6兆9,925億円	前年比10.0%減	(7,798億円減)
② 日帰り旅行	2兆1,910億円	前年比0.5%減	(105億円減)
日本人国内延べ旅行者数			
2億6,821万人	前年比8.6%減	(2,520万人減)	
① 宿泊旅行	1億4,177万人	前年比11.8%減	(1,893万人減)
② 日帰り旅行	1億2,644万人	前年比4.7%減	(627万人減)
日本人国内旅行1人あたり旅行単価			
34,240円	前年比0.7%増	(247円増)	
① 宿泊旅行	49,323円	前年比2.0%増	(958円増)
② 日帰り旅行	17,328円	前年比4.5%増	(739円増)

日本人の国内旅行消費額は、前年比7.9%減(7,903億円減)の9兆1,835億円であった。

日本人の国内延べ旅行者数は、宿泊旅行が前年比11.8%減(1,893万人減)の1億4,177万人、日帰り旅行が前年比4.7%減(627万人減)の1億2,644万人で、全体として前年比8.6%減(2,520万人減)の2億6,821万人となり、日本人国内旅行の1人1回当たり旅行単価は前年比0.7%増(247円増)の34,240円となった。

(出典)観光庁「旅行・観光消費動向調査」2021年年間値(確報)

訪日外客数

24万5,900人 前年比94.0%減(約387万人減)

令和3年に日本を訪れた外国人(訪日外客数)は、前年比94.0%減(約387万人減)の24万5,900人と激減した。これは、新型コロナウイルス感染症の拡大により、観光目的の入国が引き続き認められていないことによるもので、2021年計は2020年をも下回り、訪日外客数公表開始(1964年)以来最低の数値となった。

(出典)日本政府観光局(JNTO)「訪日外客数(2021年12月および年間推計値)」

外国人延べ宿泊者数

421万1,860人泊 前年比79.3%減 (約1,613万人泊減)

外国人延べ宿泊者数は、前年比79.3%減(約1,613万人泊減)の421万1,860人であった。

また、国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数は、第1位がアメリカ(約74万人泊、シェア21.0%)、第2位以下は中国(約33万人泊、シェア9.4%)、フィリピン(約23万人泊、シェア6.7%)、ベトナム(約23万人泊、シェア6.5%)、英国(約11万人泊、シェア3.2%)と続き、上位5か国・地域で全体の約46.8%を占める。

※国籍(出身地)別外国人延べ宿泊者数は、従業者数10人以上の施設に対する調査から作成されており、全体で349万8,990人泊となっている。

(出典)観光庁「宿泊旅行統計調査(令和3年年間値(速報値))」

訪日外国人旅行消費額

1,208億円 前年比83.8%減 (6,238億円減)

訪日外国人の旅行消費額は前年比83.8%減(6,238億円減)の1,208億円と大幅に減少した。

- ※ 新型コロナウイルス感染症の影響により、観光庁が例年実施している「訪日外国人消費動向調査」は10-12月期のみ実施し、1-3月期、4-6月期、7-9月期が中止となったため、2021年訪日外国人の旅行消費額は例年と異なる推計となっている。
- ※ 訪日外国人旅行者1人当たり旅行支出や、国籍・地域別の旅行消費額については、出典元の観光庁が非公開のため未記載とする。

(出典)観光庁「2021年の訪日外国人旅行消費額(試算値)」

イ 長崎市の観光動向

観光客数			
258万5,700人	前年比1.0%増	(2万5,100人増)	
① 宿泊客数	114万2,400人	前年比 1.5%減	(1万7,600人減)
日帰り客数	144万3,300人	前年比 3%増	(4万2,700人増)
② 個人客数	227万7,200人	前年比 3%増	(6万6,700人増)
団体客数	30万8,500人	前年比 11.9%減	(4万1,600人減)
┌ 一般団体客数	9万500人	前年比59.7%減	(13万4,000人減)
└ 学生団体客数(修学旅行生)	21万8,000人	前年比73.6%増	(9万2,400人増)
外国人延べ宿泊客数			
1万4,049人泊	前年比62.9%減	(2万3,791人泊減)	
クルーズ客船入港数、乗客・乗務員数			
入港数	1隻	前年比90%減	(9隻減)
乗客・乗務員数	547人	前年比98.8%減	(4万4,802人減)
国内クルーズ船	入港数	1隻	前年比100%増 (1隻増)
	乗客・乗務員数	547人	前年比100%増 (547人増)
国際クルーズ船	入港数	0隻	前年比100%減 (10隻減)
	乗客・乗務員数	0人	前年比100%減 (4万5,349人減)

観光消費額			
615億5,197万円	前年比 0.8%増	(約5億円増)	
経済波及効果(長崎県内)			
※確報版にて算出			
観光客1人あたり市内観光消費額			
平均	23,805円	前年比 0.2%減	(43円減)
宿泊客	35,848円	前年比 1.1%増	(382円増)
日帰り客	14,272円	前年比 0.3%増	(46円増)

令和3年の長崎市の観光客数は前年比1%増(2万5,100人増)の258万5,700人で、過去11番目に少ない観光客数となり、令和2年に引き続き300万人を下回る結果となった。

このうち日帰り客数は前年比3%増(4万2,700人増)の144万3,300人、宿泊客数は前年比1.5%減(1万7,600人減)の114万2,400人となった。

また、旅行形態別にみると、個人客数が前年比3%増(6万6,700人増)の227万7,200人、団体客数が前年比11.9%減(4万1,600人減)の30万8,500人となった。

外国人延べ宿泊客数については、前年比62.9%減(2万3,791人泊減)の1万4,049人泊となり、前年をさらに下回る結果となった。

令和3年の観光消費額は、前年比約0.8%増(約5億円増)の615億5,197万円で前年を上回った。(長崎県内への経済波及効果については、確報版において算出)

以上の観光動向に影響を与えた要因を以下のとおり分析した。

【主な要因】

■ 新型コロナウイルス感染症の影響

令和元年12月、中華人民共和国で新型コロナウイルス感染症が確認されて以来、ワクチン接種が普及しているが、新たな変異株の発生を受け感染者数が後を絶たない。また、国際的にも感染拡大防止策の一環として国境をまたぐ往来が制限され、日本政府観光局による訪日外客数が、公表開始（1964年）以来最低の数値となった。

国内においても令和3年には2回の緊急事態宣言がなされ、人流の抑制や、緊急事態宣言解除後も度重なる同感染症拡大の波による全国的な移動自粛傾向の影響から、観光客数はコロナ以前と比べ減少しているままである。

長崎市においても、県独自の緊急事態宣言やまん延防止等重点措置がなされ、①令和3年4月28日～6月7日②8月10日～9月12日の期間について、施設の閉館が余儀なくされた。

さらに、全国屈指のクルーズ船寄港地である本市においては、当該感染症拡大に伴うクルーズ船運休の影響が顕著であり、令和3年のクルーズ客船の入港は、令和元年比約99.9%減（73万1,991人減）となった。

結果として、令和3年の長崎市の宿泊客数は、令和2年と比べると1.5%の微減であったものの、コロナ以前の令和元年の数値と比べると、約57.8%減（約156万人減）となった。

【その他の要因】

■ 県および市の宿泊割引キャンペーンの実施

新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、失われた旅行需要の喚起を図るため、長崎県が県民を対象とした「ふるさとで“心呼吸”の旅キャンペーン（第1弾）を令和3年3月8日～12月31日、「第2弾 ふるさとで“心呼吸”の旅キャンペーン」を令和3年4月15日～令和4年6月30日まで実施予定（※感染拡大により停止期間）。また、長崎市も独自の施策として、県民を対象とした「お得に泊まって長崎市観光キャンペーン」を令和2年10月1日～令和3年4月30日まで実施し、域内外の需要に対し宿泊助成による地域経済の活性化を図った。令和3年12月15日からは、長崎県が実施しているキャンペーンの利用対象者を隣県の福岡県、佐賀県、熊本県の県民にも拡大し、新型コロナウイルス感染症の影響を受ける県内観光産業の回復を図った。

■ 大型施設の新オープン

令和3年10月29日に、恐竜に特化した博物館としては、国内3か所目となる「長崎市恐竜博物館」が長崎市野母町に開館した。また、令和3年11月1日には、イベント・展示ホール、コンベンションホール、会議室及び駐車場から構成される交流拠点施設、「出島メッセ長崎」が開業し、令和3年は488件（令和2年278件、前年比75.5%）、268,341名（令和2年69,775名、前年比284.6%）の方が大会・会議に参加した。

■ 令和3年10月～12月延べ宿泊客数の増加

国の緊急事態宣言が令和3年9月30日に解除されたことに伴い、人流の抑制が緩和され、令和3年11月以降には、九州内の学校を中心とした修学旅行の振替需要や、出島メッセ長崎開業イベント関係者の宿泊、ビジネス客の宿泊需要の回復等により、延べ宿泊客数が前年同月と比べ増加した。